



～おはなしと絵本を楽しむ～



おはなしグループ「パルランド」通信

第14号
2019年12月



冬は寒いから嫌いと思うようになったのは、いつからでしょうか？
だんだん温暖化になって、冬でも氷が張ったり、霧柱ができてのを見ることも少なくなりました。

昔、家庭の中でおはなしが語られていたころは、穫り入れが済んだ農閑期に、大人が子どもたちに語ってきたそうです。冬の夜長、囲炉裏端で夜なべ仕事をしながら、子どもたちに語ってきた。そんなあったかさを、時代が変わってもおはなしに添えて子どもたちに語っていきたいと思うのです♪



冬に聞きたいおはなし

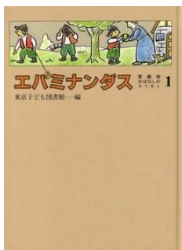
十二のつきのおくりもの

スロバキアの昔話。

愛らしい娘マルーシカは、継母とその娘に憎まれ、冬のさなか、スマレをとってこいと森に追いやられる。雪のなかをさまよううち、森の奥で焚火を囲んでいる十二の月の精たちに出会う。月の精に助けられて、スマレの花束を抱えて帰ってきたマルーシカを見て、継母たちは驚くが、さらにイチゴをとってこいと…。

厳しい冬の森と焚火を囲む
十二の月の精たちの暖かさが印象的。
冬にはかせないおはなしです。

おはなしのろうそく愛蔵版1
東京子ども図書館



冬に読みたい絵本

おかしなゆき ふしぎなこおり

冬の日。外へ出かけてみると、雪や氷の、おかしな、ふしぎなかたちが見つかります。きれいで、迫力あふれる冬の写真絵本です。

こんな形、見たことない！ものすごい分厚さで積もっている雪や、木にへばりついてモンスターのようになっている雪や、それはそれはおもしろい形になっているものが盛りだくさん！

場所や風向きなどの条件によってさまざまな姿を見せてくれる。

子どもも大人も楽しめます。

片平孝 写真・文
ポプラ社



19年秋

図書館おはなし会のおはなし

9月 絵本のみ♪

11月 だめといわれてひっこむな

「あなのはなし」「赤ずきん」「ねずみのすもう」「ヤギとコオロギ」
「金のとさかのおんどりと魔法のひきうす」「マーシャとくま」
「だめといわれてひっこむな」「ロバの耳はなぜ長い」「みつけどり」
「ひなどりとねこ」「牛方とやまんば」 など



お出かけおはなし会（学校・園など）



11月に「ひょうご教育フェスティバル」に地域リポーターとして参加し、発表をしてきました。「メディアリテラシー教育と文化活動」という分科会の中で、日ごろの活動の中での子どもの様子や、大切に思うことを話してきました。

リポーターとして参加することは、日ごろ地道に活動していることを認めていただけたようで、とてもうれしく思います。

普段の活動を振り返るいい機会となり、また新たな気持ちで活動していこうというパワーにもなりました。

大人の方に耳からの読書の楽しさ・大切さをもっと知っていただいて、おはなしがどんどん広がっていくことを願って♪



図書館大きな子のおはなし会

令和1年9月より変更

毎月第1土曜日 午前10時30分～
(30分程度)

おはなしのへやにて

内容：ストーリーテリングと絵本など
※予約はいりません。お気軽にご参加ください



～想像の翼を大きく広げて～

耳から聞くおはなしの楽しさを多くの人に届けます。
興味のある方はぜひ一度聴いてみてください。
また、ご希望の場所に出かけて、おはなしを語ることも可能です。お気軽にご相談ください。

【おはなし会のお問い合わせ】
西脇市図書館（電話0795-23-5991）
パルランド 丸山（電話090-8930-0921）
パルランド通信は「パルランド」が発行しています。

